

会 議 録

会議の名称		令和元年度つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時		令和元年10月1日（火） 開会10:30 閉会12:00
開催場所		つくば市役所 5階庁議室
事務局（担当課）		政策イノベーション部 持続可能都市戦略室
出席者	委員	・ 一般社団法人つくば観光コンベンション協会 副会長 市川 一隆 ・ つくば市工業団地企業連絡協議 会長 村上 博 ・ つくば市農業委員会 会長 高谷 榮司 ・ 筑波学院大学 学長 望月 義人 ・ 国立大学法人筑波技術大学 産業技術学部総合デザイン学科 教授 生田目 美紀 ・ つくば市中学校・高等学校長協議会 会長 國府田 稔 ・ つくば市福祉団体等連絡協議会 会長 後藤 真紀 ・ つくば市ボランティア連絡協議会 代表世話人 星埜 祥子 ・ つくば市PTA連絡協議会 会長 根本 一城 ・ 筑波研究学園都市交流協議会 事務局長 稲葉 典俊 ・ 一般財団法人つくば市国際交流協会 理事長 小玉 喜三郎 ・ 公益財団法人つくば文化振興財団 常務理事 宇津野 茂樹 ・ 株式会社常陽銀行 研究学園都市支店長 小河原 公男 ・ 株式会社筑波銀行 地域振興部長 沼田 数人 ・ 茨城県社会保険労務士会 副会長 山崎 満 ・ つくば市シルバー人材センター 副理事長 宇都宮 章 ・ 株式会社茨城新聞社 土浦・つくば支社長 菊池 克幸 ・ 一般財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス 理事兼業務部長 小山 幹治 ・ つくばコミュニティ放送株式会社 代表取締役 堀越 智也 ・ 筑波地区区会連合会 会長 木澤 寛伸 ・ 大穂地区区会連合会 会長 川根 義行 ・ 豊里地区区会連合会 会長 坂本 義治 ・ 桜地区区会連合会 会長 一色 喜美子 ・ 谷田部地区区会連合会 会長 飯田 哲雄

		・ 荃崎地区区会連合会 会長 小原 正彦 ・ つくば市議会 議長 神谷 大蔵 ・ つくば市議会 副議長 山本 美和 計 27名
	その他	オブザーバー つくば市副市長 毛塚 幹人
	事務局	森政策イノベーション部長、 片野政策イノベーション部 次長、 大越企画経営課長、課員 2 名 吉岡持続可能都市戦略室長、室員 3 名 各部の次長・企画監等
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開 傍聴者数 2 名
会議次第	【全体会議】 1 開会 2 議事 （１）第２期つくば市まち・ひと・しごと創生総合戦略 （次期戦略プラン）の策定に当たって （２）第２期つくば市まち・ひと・しごと創生総合戦略 （次期戦略プラン）について （３）その他 3 閉会	

1 開会

○政策イノベーション部長

皆さん、おはようございます。定刻となりましたので、令和元年度つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開会いたします。お忙しい中、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

私は本日の進行を担当いたします、政策イノベーション部長の森と申します。よろしくお願いいたします。本年６月に、着任させていただきました。

今、地方創生について、つくば市の中でもいろいろ議論を継続して行っているところですが、なかなか国全体で見ましても、地方圏から東京圏への人口流出、人口移動に抜本的な抑制がきいていないという状況は引き続き起こ

っておりまして、つくば市においても、特に15歳から29歳の若者に焦点を当てますと、東京圏への転出について歯どめがかかっていないような状況です。

昨日、市長と筑波大学の学生の意見交換もあったところですが、つくば市に引き続き住みたい人に手を挙げてもらったところ、ほとんど挙がらず、30名中4名ぐらいだったということで、非常に衝撃を受けたところです。

第1回の総合戦略については来年の3月で終了となりますが、これまでいただいた御意見に、本日頂戴する御意見、こちらを加えましたものを、第2期の総合戦略ともなる、つくば市戦略プランにマージするような形で反映させていきたいというふうに考えてございます。

それでは、開会に当たりまして、市長の五十嵐より御挨拶申し上げます。

○市長

おはようございます。本当に委員の皆様方には、ここまで多くの御議論をいただきましてありがとうございます。総合戦略は、来年度の戦略プランに統合されていきますので、どういう形でそれをしていくのがいいかというのを、ぜひ、今日は御議論をいただければと思っております。

この新しいプランは、ビジョンの中で2030年を一つのゴールとして、「つながりを力に未来をつくる」という基本理念で進めています。昨日、学生たちに聞いたところ、卒業後、残りたいと思う学生は少ないと。私ちょっと質問をかえてみまして、2030年に皆さんが戻ってきたいと思うようなつくばは、どんなまちですかというのを各テーブルで議論をしてもらって、それをそれぞれのテーブルから聞きましたところ、そこでも本当にさまざまな視点がありました。

当然、仕事という要素も非常に大きく入っている、やっぱり働く場所があるかどうかで、つくばを離れざるを得ないという学生も多かったわけですね。一方で、文化や芸術の話も出ました、あるいは、消費行動にまつわる部分も出ました、また、交通にかかわる部分も出ました。

そういった全ての問題を恐らく解決することはできないのではないかと思います。このままいくと、我々はじり貧になってしまうという危機感は共有できると思います。

悲観的な未来予測というのは当たらない、というタイムズの分析があるそう

なのですね。テクノロジーが発展してこんな世界になるだろうとか、あるいは、気候変動によってこんなことが起きてしまうだろうとかいろいろな、ポジティブなものもネガティブなものもあるわけですが、悲観的な未来予測は当たらないそうなのですね、データによると。

それはなぜかという、悲観的な未来予測が共有され、社会の中で課題として認識されると、それに対する対処を皆が考えていくようになって行動をするので、そういった未来予測は外れる傾向にあるということなのです。

恐らく、戦略にしてもプランにしても、そのためにやっているのだろーと思っています。黙っていれば、つくば市も人口は減っていきます。そして、より周辺市街地から中心への人口流入も、黙っていたら起きてしまう、あるいは、東京圏への流出もこれからも続いてしまうわけです。

我々は、その先に何があるのかということ、危機感を持って、どうすればその動きを変えていけるのかということ、そして対策を立てるといのが、この会議であり、方策を描いていく市役所の仕事なのだろうと思っております。

その意味でも、ぜひ、その悲観シナリオを消していけるように、我々は、現実を見据えながら前を向いて動いていきたいと思っておりますので、今日も活発な御意見をいただければと思っています。

本日の会から、持続可能な世界へ向けて一つ変化をしたのは、ペットボトルの配付をやめたことです。昨日の会議でもペットボトルが出ていたので、言ったのです。きっと2年後に、皆さん、この会議の写真見たら、「うわあ、ペットボトルなんか配っていたのだね」と多分思いますと。それぐらい、世界のスピードは変化をしているのです。

私も、「ペットボトルはもうやめよう。」と山崎アドバイザーにポートランドから言われて、ああ、そういうものかと思ったのが、しばらく前なんです。でも、多分そのとき彼が言っていることは、まさに世界のトレンドになり始めたころです。

ちゃんと意識するとともに、数字に基づいて行動を変容させて、初めてまちは変わっていくものだと思いますので、こういったことは、本当に一つの

小さな取り組みかもしれませんが、新しい当たり前をたくさんこういう場所からつくっていきたいと思っております。

ぜひ、皆様の御議論をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

2 出席者紹介

○政策イノベーション部長

続きまして、令和元年度より新たに委員に御就任いただいた方がいらっしゃいますので、御紹介させていただきます。

※出席者の紹介

3 議事

(1) 第2期つくば市まち・ひと・しごと創生総合戦略（次期戦略プラン）の策定に当たって

○政策イノベーション部長

それでは早速、議事に入りますが、ここからは、つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第5条第3項に基づきまして、小玉座長に議長をお願いいたします。

○座長

皆様おはようございます。それでは、議事に入りたいと思います。

本日も御多忙のところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

前回は、今年の3月に開催したと思いますが、これまでは年度ごとの総括という感じでしたが、本日は、平成27年度に策定した総合戦略の総合評価を前半で行いまして、後半で、先ほど市長からもお話がありました次期総合戦略、つまり次期戦略プランについて、皆様からの御提言をいただきたいと思います。

それでは、議事1について、事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局 （資料 1 を説明）

○座長

ありがとうございました。これまでの進捗状況について、まとめていただいております。特に、最後の 5、6 ページで、全体の課題も整理していただいておりますが、ここからは皆様に、まとめ方として、こういう点をもっと注目すべきであるというようなことも含めて御意見をいただきたいと思います。あくまでも、次期戦略に向けてつなげていくという趣旨で、このタイミングで会議を開催しておりますので、御理解いただきたいと思います。

皆様から御意見をいただく前に、委員からの事前質問をいただいておりますので、そこから対応していきたいと思います。まずは、机上配布資料の12スライド目にあります、新規正規就職者の増加について、経済部のほうから御説明いただけますでしょうか。

○経済部 次長

御質問について、お答えいたします。

まず、市内の事業者数が、平成29年に比べて平成30年度は170増加しまして、6,744になっております。就業者数がふえている地域というのは特定できないと思いますけれども、TX沿線開発等でまちづくりが進んでいる地域に、新たな事業所が進出しています。そのような事業所に、市内各所から就職者が生まれているという状況にあると思います。

あと、職種ですけれども、ハローワークの業種を見ると、一番多いのが、事務職の正規就業者数が多いです。その次に、製造業、運送業となっております。

続けて、就業者が減っている地域と職種ということでございますけれども、こちらについても、どこが減っているか、どういった職種が減っているかというのは把握できておりませんが、一般的に、大型店舗の影響や高齢化による事業後継者不足とか、事業承継が進まない中小企業者がいることから、大工とか、そういった個人事業主、あとは小売り店舗、飲食業が減っている傾向がございます。そういったことから、関連の業種についている従業員が減少している

と推測しているところでございます。

○座長

ありがとうございました。

二つ目の御質問については、今後どういう環境づくりが大切かというような課題の提案に対する御意見でもありますので、これは議事の2のほうと関連していますので、2のほうで、また対応いただくようにしたいと思います。

三つ目の御質問につきましては、資料のスライドの30にございますけれども、いわゆるまちなか人口の問題ですね。ここに集中していることについて、分析、現状をもとに調べるべきであるという御提案であります。これも、今後どうするかという意見も後半では含まれておりますが、まず現状について御説明願います。

○都市計画部 次長

まちなか居住人口の増加要因ということで御質問いただいておりますが、まちなか居住人口の増加数のほとんどが、T X沿線開発地域の増加でございます。増加要因としましては、沿線開発地区に宅地開発が進行したことによるものと考えられます。

○座長

ありがとうございました。今後のことについては、また議事2のほうで御意見をいただきたいというふうに思います。

事前質問についてはお答えをいただきましたけれども、ここで、ぜひ皆様からも、まとめに当たって、こういう点を詳しく分析するべきであるとかというような御意見、御提案等ございましたらお願いいたしたいと思います。いかがでしょうか。どうぞ。

○委員

スライドで30番になるんですけれども、これの中で、国の政策で公務員宿舎

が売却ということで、逐次、計画的に行われておりますけれども、そこに住んでいた方がどのような移動形態をとられているのかということと、あともう一つ、中心市街地の活性化の関係から、前にも要望してありましたけれども、その中心市街地において、土浦市みたいに市営の駐車場とか、あとは民間の駐車場も、市民が優位的に利用できる、そういう制度面の取り組みについてどのように進んでいるか、2点ほどお聞きしたいと思います。

○座長

後半については、議事2のほうでお答えするとしまして、前半について、よろしくをお願いします。

○都市計画部 次長

住んでいた方の移動形態については、細かく把握をしているわけではないので、この場ではお答えすることが難しいです。

○座長

この総括は、できるだけクールに次につなげるという意味で、客観的に分析を、正確に行っていただきたいなと思います。そういう意味も含めて、どうぞ御意見ををお願いします。

○委員

スライド14のところなんですけれども、平成27年から30年度までの成果で、合計特殊出生率が伸び悩んでいる原因が8行書いてあるんですが、その真ん中のあたりで、一般的には晩婚化、晩産化による影響が大きいという分析をなされていますけれども、本当にそうなのでしょうか。

社会増はかなり伸びているという中であって、合計特殊出生率が伸びないというのは、やっぱり私が思うに、つくば駅、研究学園駅周辺、一見、見た目はすごく都会っぽくて、おしゃれなまちにでき上がってはいるんですけれども、そこに子どもの一時預かりの施設がないのではないのでしょうか。本当は研究学

園駅周辺、つくば駅周辺も、二十歳代の子育て世代が、4,000万、5,000万のマンションは買えないですね。研究学園駅前のイーアスの前あたりの戸建てにしたって、6,000万するわけですよ。それ買えないですね。

そういった人たちが、あの周辺じゃなくとも、もう少し離れたところにでも住んで、そして、つくば駅、研究学園駅を利用して、そこに子どもの一時預かりができる施設をもっとつくって、TXを利用して働きに行く。もちろん、つくば市内に働く場所がないとか、先ほど市長がおっしゃっていた大学生がどこかへ行ってしまうので、そのための就業の場をつくるという問題はちょっと置いて、定住人口をふやしていくことを考えれば、もう少し駅前にそういった子育て世代のための施設を充実させていくべきでしょう。

だから、ここで晩婚化、晩産化による影響というくくりで総括していいのでしょうかという疑問がちょっとあります。このままいくと、20年後、30年後って、つくば駅、研究学園駅周辺って、どういうまちになるんですかね。今の年代の人が30年後ですよ。

○座長

ありがとうございます。ここは、総合評価でDということで、大変重要な課題ではありますが、いいアイデアを御提案いただいたと思います。

ほかに、御意見とか御提案等はございますでしょうか。

特に、かなりクリアにS評価のところとかD評価のところというのは、これは現実としてありますが、どうすればこの問題が解決するかということも含めて、分析が足りないのではないかというようなことを含めて、次につなげるために御意見等、御提案等ございましたら、ぜひお願いしたいのですが。

○委員

スライドの25番の子連れ出勤モデル事業についてなんですけれども、これは平成28、29、30年と実施してきて、成果ということで記載はされております。ただ、この課題のほうにも、費用面の不安やノウハウ不足等が導入のハードルとなっているということで、一旦、検証も行われているんだとは思いますが

れども、これは保育、待機児童の解消であったり、ライフスタイルを変えていくという、つくばとして特色のある取り組みとして取り組んでいるところだとは思いますが。

しかしながら、取組がなかなか表に出てこないというか、知っている方は知っているんだけど、幾つかモデルとしてはやってみました、周知をこれからも図っていききたいという程度のまま進むのかどうか、これについての検証というものがどうなっているのでしょうか。

そして、この事業をつくば市の目玉として取り組み続けるのかどうか、このあたりが何となく曖昧なまま、来年度もリーフレットによる普及啓発を図る、また興味を持った事業所に対してマニュアルの提供を行う、この程度で、いわゆる若者の定着支援事業という位置づけのままでいいのかなと思います。

いろいろなほかの事業を見ている中で、非常にこの子連れ出勤モデルに対しては期待もあるんですけれども、このままでいいのかなという感想を持っております。

○座長

これについては、事務局いかがでしょうか。

○事務局

政策イノベーション部からお答えします。今、御指摘のありました事業所への周知であるとか、そういったところかと思うんですけれども、現在のところ、こういったパンフレット等については、ホームページ、そのほか庁舎内の関係各課、産業振興課であるとか、こども政策課、男女共同参画室の窓口等で配布をしております。

そのほか、このリーフレットができた段階で、商工会に加盟しています企業にも御紹介の送付をしております。

今後も、事業者向けの周知啓発をしていきたいと考えております。

○座長

いや、周知だけが主な原因だったのかどうかという分析は、今後続けるかどうかという意味で重要だという御指摘だったと思います。この辺はぜひ、本当の原因が何なのか、モデルとしたわけですので、モデルを知られていませんでした、という話ではないんじゃないかとも思います。

それでは、後半の議題に、これから移っていきたいと思います。

(2) 第2期つくば市まち・ひと・しごと創生総合戦略(次期戦略プラン)について

○座長

それでは、本日の議題の2のほうになるわけですが、来年度から始めます、冒頭で市長がお話ししました2030年度を目標とした次期戦略プランは、今回のまとめを反映させていくという、実は、大変重要なタイミングで、ある意味とてもいいタイミングでありますので、むしろここでは、こんなことをインプットしたいということを、御議論いただきたいと思います。

それでは、事務局から次期戦略プランについて、御説明をお願いします。

○事務局 (資料2から6を説明)

○座長

ありがとうございました。ここでは、議題の1で総括しましたような、Sである評価とDである評価、これが次の計画にはどういうふうに反映されているのかについて、皆様からの御意見をいただきたいと思います。

それでは、皆様から御意見をいただく前に、先ほど机上配付でありました事前の御意見として、同じく委員から、4番目、5番目の二つの御質問、御意見をいただいております。

まず4番目ですけれども、新しいまちづくりに関してですが、先ほどの質問の2番と関連するわけですが、子育てと仕事の両立ができる仕組みというのが、新しい戦略ではどのように盛り込まれているか、これについては、企画経営課のほうから御説明をお願いします。

○政策イノベーション部 次長

御意見等の2番の前段でありました、仕事と子育ての両方に満足できる仕組みを目指すということになりますが、こういった点に主に手を入れているのが、6番目になります「子どもも親も楽しく育つ環境をつくる」、基本施策案の上から6段目、1ページ目ですと下から3段目になります。こちらのほうで、「子どもを安心して産み育てられる環境整備」でしたり、「多様なニーズに応じた保育環境の整備」、こういったところの方向性から、これについては対応していきたいと思っております。

また、一番下になりますが、多様性に寛容で、多様な人材のチャレンジ、こちらのほうの基本施策の中の重点戦略1番の「多様性に寛容な社会の推進」のほうでは、男女共同の参画のほうのテーマ等も含まれておりますので、この点からも対応していければと思います。

また、2番の委員の一番下のほうになります若い当事者以外の人とのつながりの創出につきましては、こちらは全体構成の一番上、基本施策の地域で支え合う福祉のところの一番上の重点戦略になるんですが、世代や分野を超えた地域の居場所づくりということで、子供から高齢者まで地域でつながれる場をつくっていけないかという重点戦略を掲げておりますので、この点で対応できればと考えております。

○座長

どこで対応しているかというのは、必ず対応しているようにはなっているんだと思うんですが、実際何をやるのかというのを皆さん知りたいと思うんですが、それは、これから議論するという形になるんでしょうか。

今、これから戦略に議論が移っている途中の段階ですので、まだ具体は出ていないところもあると思いますが、問題として指摘されたのは、このように次の戦略の中には位置づけられているという御説明だと思います。

それではもう一つ、5番目の土地利用構想に関連して、センター地区あるいは周辺地区も含めての細やかな計画について、内容が反映されているかどうか

ということについて、これも含めて、それでは、企画経営課のほうから御説明をお願いします。

○事務局

今回の地域単位での細かな内容ということなのですが、先ほどの御説明資料の中の資料3のほうの最後9ページ目、10ページ目になるんですが、こちらのほうは、未来構想の中に含めます土地利用構想という形になりまして、つくば市全体としての土地利用を示させていただいているものになっております。

9ページは、土地利用の基本になりますハブアンドスポークという概念の御説明になっております。ここは、TX沿線と研究学園地区をハブ、核としまして、その周辺、旧市街地とそちらの生活拠点として、ハブ機能との連携、そういった形で中心の核とスポーク、自転車の車輪のような形でつないで連携を図りながらの地域の生活サービスの機能の向上を図るような構想になっております。

続きまして、10ページにおきまして、つくば市全域というのを、以下に掲げられているような田園都市ゾーン、田園集落ゾーン、自然・観光ゾーンの三つのゾーンを設定いたしまして、それぞれの拠点、役割を持たせながら、まちづくりを行っていきたいと考えております。

今回の戦略プランのほうにおきましては、資料4の2ページ目の3列目、基本施策案から見ますと、下から2段目、「つくばならではの街並みや体験に出会えるまちの創出」、こちらが主にまちづくりをメインに掲げている基本施策になりまして、重点戦略として、現行案としまして、こちら以下右にあるような四つのものを設定させていただいております。

一番上から、研究学園地区、こちらは緑とか景観とか、イノベーションあふれる地区にしようという取り組みでしたり、2番目の持続的な既成市街地というのは、合併前の旧市町村の中心地を中心とした既成市街地の振興、3番目としましては、TX沿線等を中心とした新しくできるまちとのつながりの創出、先ほど言った一番下のほうは、自然・観光ゾーンを中心とした、豊かな自然とか農村集落等の持続等を対策として掲げさせていただいております。

○座長

ありがとうございました。どこに対応しているかという問題も重要だと思いますが、同時に、この４年半過ぎた段階で総括したものが具体的にどのように反映されるか、実はこれから決めることですので、特にこういう点について、そのボトルネックを注目して、ボトルネックの解決に取り組んでほしいという御提案等がありましたら、ぜひ皆様から御提案いただきたいと思います。

○委員

御丁寧にありがとうございます。私は初めてなものですから、この会議自体の流れや今までの取組等を十分理解できていないところがあると思いますので、的外れなところがあるかも知りますけれども、御容赦いただきたいと思います。

今の御答弁いただきまして、言葉の上では、すごくきれいだし、報告書とかそういった面では何ら問題ないようなことになっているのかと思うんですが、私の言いたいことは１点です。現場に立っていただきたい。

つくば市は豊かな自然とか言っていますけれども、農地の荒れている放棄地とか、そういったものに対する手というのは、全然入っていないんじゃないかなと。こういう机上のきれいごとじゃなくて、現実には即した発想をもっともっとウェイトを持って取り組んでいただければと思います。

○座長

ありがとうございます。大変根本的な御指摘だと思います。

いろいろな御指摘、御提案も含めて、できるだけ多くの皆さんから御意見いただきたいんですが、ほかにございますでしょうか。

○委員

今の話と同じなんですけれども、各地域の差というのは、どうしようもないほど開きがあるんですよ、地域によって。それで、今日のお話を聞いて、うわ

あ、すごいことをやっているな、いいことだなと思ってずっと聞いていたんですけれども、何ページだの、何の図だと言われても、探すだけでもう手いっぱいなのが現状でした。

そこで、私が言いたいのは、各地区で、それなりの行事なり集まりがあるんですけれども、そこに市役所の職員が全然顔を出さないんですよ。住んでいながら、顔を出さないんですよ。一般の人なんですから、市の職員といえども。そういうところに顔を出して、まず現場を知ってください。そのまちの皆さんが一体何を考えているのかって、市の職員に知ってもらいたい。

それで、一つの例ですけれども、高見原は、もう超高齢者の世界になって、区長や民生委員が今までリーダーの立場でいたけれども、もうそういう方すら動けない年齢になってきているんですよ。

そういう中で、4丁目に青年部というめずらしい名前の団体ができたんですよ。それが、現役で40代後半から50代の方々の6人で立ち上げて、今現在16人で頑張っているんですよ。おい、ちょっと待てよと。市の職員はいっぱいいるから、市の職員を私が紹介するから、その人たちとコンタクトにとって会話を持ちなさいと言ったら、そんなことしていいんですかという返事だったんですよ。ところが、まだ職員を紹介しないうちに、彼らはすぐ調べて、もう第1回目のミーティングをやっているんですよ。おお、いいことをやっているなと。お金が足らなかつたら、市役所にかけ合うから、やれ、やれと言って、現実に進んでいるところなんです。そういうことを、もっと市の職員に現場へ来てほしいなということを提案したいんです。

○座長

ありがとうございます。ほかにも御意見ございますか。

○委員

私が一つ申し上げたいなと思っているのは、この資料4の基本施策案と重点戦略案ということで提示されておりまして、これを現実的に進めるのが、この一番右端の担当課ということだと思うんですね。

ここには、各項目、たくさんの担当課のお名前が入っています。多分この担当課の皆さんは、一つ一つのK P Iに近づけるための個別の事業計画であったり、個別のいろいろな事業を進めていくマンパワーなわけなんです。どの項目も、いろいろな目的や未来像につながっていくので、もちろん連携して協力してやっていってくださっているのは重々わかっているんですけども、この皆さんの努力、担当課のその努力を、どこがつないで、きちっと未来像まで持っていけるのかということが非常に大事なんではないかなと思います。

聞くと、多分「連携してやっています。」「時々そういう合同の企画会議や戦略会議をやりながら、この事業を進めています。」というお答えになるんですけども、現実、担当課は、もうその目の前のことをやるので精いっぱい、自分たちがやったことが、果たしてどういうふうにまちの戦略につながって、また、自分たちがやった細かい作業や仕事が達成感につながり、ああ、これが市民のみんなに伝わって、僕たちの仕事がきちっとまちの発展につながっていったんだなという実感が持てるような仕組みというのは非常に大事だと思うんですよ。

その担当課の皆さんが努力したことが、どうしたらこの未来像につながったのかということを、庁内の中でどう評価をして、どういうふうにつなげていくのかというのは、この担当課の人たちだけではできないと思うんですね。それを、どこか別の部署が、どうやって評価をして、どうやってつなげていくのかという、ここがきちっとしない限り、いつまでもばらばらの個別施策のまんま、その中だけで終わっていつてしまうのかなというふうに思っています。

よりいい未来像を掲げるならば、そこをつなぐ中の仕組みというものが必要ではないかなというふうに思います。それが多分、先ほど皆さんがおっしゃっていたような現場をと言っているのは、庁内の中でも、その現場の課と、いわゆる取りまとめているところの格差があるのかなというふうに感じます。

○座長

ありがとうございます。何か御回答ありますか。

○毛塚副市長

貴重な御意見をありがとうございます。

まず、この個別の内容がつくられた経緯としては、実際の担当者であったり、若手の職員が中心となつてつくっていきまして、現場も含めた職員の思いが込められたものにはなっています。

ただ、これから実行していく中で、いろいろな施策が含まれていますので、それをどういうふう全体としての理想像に持っていくかというところは、やはり企画部門が伴走しながら、行政が抜け落ちがちなコーディネーションといえますか、全体の見方方向性をこっちにというのであったり、改めて実行段階で我々が何を目標しているのかと改めて意識するような機会を持ったりとか、そういうのが必要になっていくんだらうなと思いました。

もちろんこの計画をつくる中でも、例えばK P Iをどうするのかなどによっても、目線をそろえるということもできてるかと思いますが、そういった個別の項目の内容と、実際の運用の仕方というところは、できることを考えたいと思います。ありがとうございます。

○座長

私も、せつかくまち・ひと・しごとで総括していただいたものに対して、分析が足りないなという印象をまず抱きました。それを分析しないと次の計画に結びつかない。

他に御意見はありますか。

○委員

私、市内で子育て支援の場を開いています。それで、子どもに関わることは、かなり興味というか、意識が向くのですが、ここで、市の基本目標とかそういうものの中に、結婚し、子供を産み・育てというところで、保育所の待機児童を減らすとか、いろいろな御意見があるのですが、やっぱりそこに働くお母さんに対する目線しかないような気がします。

それで、もちろん育休をとられたり、それから産休をとられて、その後また

復職できる恵まれたお母さんたちもいらっしゃいますけれども、その一方、ある程度、幼稚園に入れるまで自分で育てようと思って離職なさる方たちもいらっしゃいます。

でも、昔は子どもに何かあったときには、親や周りの人たちの助けというのが容易に得られたんですけれども、今は、実家のお母様、それから嫁ぎ先のお母様にしても、仕事を持っていられる方たちが多くいます。自分の住んでいる周りの第三者の誰かの手をかりることができれば、より楽に、育児も家事も、それから自分のためのスキルアップの勉強もできるという状況を間近に見ておりますので、公的な支援や民間企業を利用してではなくて、やっぱりここは地域のつながりというものを、いかに利用して、お母様やお父様たちを支えることができる場、そういう視点をどこかで考えていただけるとありがたいと思っています。

○座長

ありがとうございました。ぜひ、今後の議論の中に反映していただきたいというふうに思いますが、ほかにもございますでしょうか。

○委員

先ほどから出ているように、すごい立派な案で、だけれども抽象的なというお話が先ほどからありましたけれども、具体的にしていくのに、つくば市の中で職員の方がどういう役割分担をするかということももちろん大事かとは思っているので、そこで血を通わせていくということも大事なのかもしれませんけれども、今の時代、人口も減っていますし、つくば市の方の人数というのものもあるかと思うので、このまま抽象的なものを掲げて、具体的なものはこれからというお話をしても、あっという間に5年、10年とたっていくような気がしました。多分その5年後に、これ、じゃあ具体的になっているかという、なかなか簡単にはなっていないんじゃないかなと思います。

そのためにどうすればいいかというと、いろいろ考えても、職員の方のできることがまだたくさんあるのかもしれないですけれども、市民の方だったり、

地元の企業だったりとか、職員の方だけじゃなくて、巻き込んでできることがあれば、もう少し早く進んだりするのかなと思いました。

また、マンパワーという問題もあるとは思いますが、6市町村合併した結果、やはり荃崎のほうへ行くと、なかなか最近になっても、余りつくば市の行政の力がそんなに通っていないかなと。荃崎というのが、最後に合併されて、牛久に近いから余り発展していないという陸の孤島みたいになってしまっているというのが、皆さん意識してくださっているのはよくわかっています。つくば市としては、高見原を拠点に考えているということですが、高見原は牛久のほうであり、荃崎はもっと広くて、ふれあいプラザとかがあるあたりとは大分離れているんです。ふれあいプラザのあたりは、野球場があったりとか、すごくいろいろ施設があるのに余り使われていません。例えば、独立リーグの球団ができましたけれども、そこが今、野球するのに耐える状況ではなくて。

牛久市は市長がかわって、すぐ野球場を改修して、プロ野球の試合ができるようになっていて、2軍だったり3軍だったりですが、そういうことを考えていただけると、まだできることがたくさんあるんじゃないかと思いました。もう少し、人の力だったりとか、地元の企業の力をうまく使ってできたらいいなと。

特定の企業と市が、どれだけ仲よくしていいのかという問題はあるかと思うんですが、結構ほかの市町村を見ると、民間企業に頼って、まちを活性化する努力をしていたりしますので、そういうことができたらいいなと思います。

○座長

ありがとうございます。

進め方について、特に市民、企業等の御意見を反映するという今のプロセスとして、そういうことは今どうなっているかについて御説明願います。

○企画経営課

さまざまな御意見をいただく場としまして、パブリックコメントに加えまし

て、現在、研究者の方であったり、企業の方であったり、あとは子育ての世代の現場に出向きまして、その御意見をいただくようなキャラバンという形での取組を現在進めております。

冒頭、市長からも話があった大学生との意見交換というのも、そのキャラバンの一つでありまして、今後は、イーアスつくばのほうでも、市民の方を対象にしたキャラバンというのを予定しています。

また、昨年、アンケート調査なども実施しておりまして、そちらのアンケート結果なども、昨年の取り組みの中では参考にさせていただいております。

○座長

ありがとうございます。今まさにタイミングですので、この後、また事務局等にも御意見を出していただければといいのかなと思います。

短い時間で、ここでは十分議論ができていないかと思いますが、最後に、その他で、事務局のほう、今後のことも含めて御報告ありましたらお願いします。

(3) その他

○事務局

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。さまざまな意見等を頂戴しておりますので、また後日、会議録形式等で皆様に御配付させていただきますのと、お手元に事後意見の様式を置かせていただいた。本日は限られたお時間でございますので、御意見等を御発言できなかった方につきましては、御遠慮なく、そちらのほうに御記入いただきまして、これまで同様のメール、ファクス、電話等々、どのような方法でも結構ですので、いただければと思います。

また、2枚目に、このたび取り組ませていただきましたペットボトル削減の取組のアンケートがございます。今回は初めての実施でございますので、我々のほうで至らない点等ございましたと思いますので、ぜひ今後よりよい取り組みにするために、御意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

今後のスケジュールでございますが、現在頂戴した御意見をもとに、企画経営課のほうでは戦略プランのほうの策定を進めていく予定となっております。まち・ひと・しごと有識者会議につきましては、次は3月ごろを予定してございます。こちらについては、例年御参加いただいているように、令和元年度の1年間の取組の速報値にて資料を御用意いたしますので、その評価について御議論をいただきたいと考えております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○座長

ありがとうございました。

3 閉会

○座長

では、これにて終了させていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。